



泊発電所 火山影響評価 に関するコメント回答方針

平成28年2月5日
北海道電力株式会社

ヒアリング・審査会合における指摘事項

No	指摘事項	指摘時期
1	泊発電所の火山影響評価については、これまでの指摘事項を踏まえた検討を十分行っており、洞爺カルデラの火砕流シミュレーションは、本日の検討結果が十分確からしいと考えられるが、念のため、極端なケースについて検討し、その結果を把握することが望ましい。	H26年3月12日 審査会合
2	火砕流シミュレーションで評価値として用いている実測された火砕流の速さについては、元となる出典を明らかにすること。	H27年2月2日 ヒアリング
3	個別評価対象火山の検討フローにおいて、洞爺カルデラ、支笏カルデラについては、ガイドに基づく検討を踏まえて自主的な検討と位置付けているが、有珠山は洞爺カルデラ、恵庭岳、風不死岳、樽前岳は支笏カルデラの後カルデラであることを踏まえて、それらの検討の位置付けを整理すること。	H27年10月27日 ヒアリング
4	洞爺カルデラの火砕流シミュレーションによる検証計算結果において、羊蹄山と尻別岳がないことを考慮した地形で計算を行っているが、その設定根拠を提示すること。	H27年10月27日 ヒアリング
5	監視レベルの移行判断基準については、マグマ供給率を用いるとしているが、その具体的な内容を資料に追加すること。	H27年10月27日 ヒアリング
6	モニタリングの概要において、その冒頭に規制要求としてモニタリングを実施する背景について追記すること。	H27年12月17日 ヒアリング

指摘事項に関する回答方針

No	指摘事項	回答方針
1	泊発電所の火山影響評価については、これまでの指摘事項を踏まえた検討を十分行っており、洞爺カルデラの火砕流シミュレーションは、本日の検討結果が十分確からしいと考えられるが、念のため、極端なケースについて検討し、その結果を把握することが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ・極端なケースの検討として、底面摩擦係数及びパイル形状について、更なるパラメータスタディを実施した。 ・回答内容は、まとめ資料P124～P129に記載。
2	火砕流シミュレーションで評価値として用いている実測された火砕流の速さについては、元となる出典を明らかにすること。	<ul style="list-style-type: none"> ・下鶴ほか編(2008)に記載されている火砕流の速さについて、出典を整理した。 ・回答内容は、まとめ資料P42に記載。
3	個別評価対象火山の検討フローにおいて、洞爺カルデラ、支笏カルデラについては、ガイドに基づく検討を踏まえて自主的な検討と位置付けているが、有珠山は洞爺カルデラ、恵庭岳、風不死岳、樽前岳は支笏カルデラの後カルデラであることを踏まえて、それらの検討の位置付けを整理すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価対象火山の検討において、後カルデラ火山をカルデラ火山に含めて検討を実施した。 ・回答内容は、まとめ資料P7～P9に記載。
4	洞爺カルデラの火砕流シミュレーションによる検証計算結果において、羊蹄山と尻別岳がないことを考慮した地形で計算を行っているが、その設定根拠を提示すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・約11万年前の羊蹄山及び尻別岳がない地形で検証計算を実施する根拠について整理した。 ・回答内容は、まとめ資料P41に記載。
5	監視レベルの移行判断基準については、マグマ供給率を用いるとしているが、その具体的な内容を資料に追加すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・マグマ供給率の算出方法について記載した。 ・回答内容は、まとめ資料P100に記載。
6	モニタリングの概要において、その冒頭に規制要求としてモニタリングを実施する背景について追記すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの実施背景について記載した。 ・回答内容は、まとめ資料P97に記載。